



目次

- | | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| P1 企画展「ハンセン病文学の新生面『いのちの芽』の詩人たち」を開催します | P3 資料の修復 展示資料の修復を実施しました |
| P2 『はじめてのみなさんへ』が一段と使いやすくなりました | P3 研究から 企画展における広報の分析 |
| P2 「ハンセン病と人権」セミナーを開催 | P4 当館リーフレットリニューアルのお知らせ |
| | P4 お知らせ／利用案内 |

企画展「ハンセン病文学の新生面『いのちの芽』の詩人たち」を開催します

2023年2月4日(土)～5月7日(日)、当館企画展示室にて、企画展「ハンセン病文学の新生面『いのちの芽』の詩人たち」を開催します。

1953年、らい予防法闘争のさなか刊行された大江満雄編『いのちの芽』(三一書房)は、全国8つのハンセン病療養所から73人が参加する、初めての合同詩集でした。今年が詩集刊行から70年目にあたります。

隔離政策の不条理に直面しながらも外部社会に向けて希望・連帯・再生を希求する新たな文学の姿を、展示を通してぜひご覧ください。

企画展の関連イベントを、以下のとおり開催します。申し込み受付を、2023年1月4日(水)正午12:00から開始します。申し込みは、当館ホームページからお願いいたします。先着順で定員に達し次第締め切ります。ライブ配信するイベントもありますので、ぜひご参加ください!

◆コンサート「青い鳥のハモニカ」

2023年2月11日(土、祝) 14:00～15:30

出演：阿部海太郎(作曲家)、

トウヤマタケオ(作曲家、鍵盤奏者)、

当真伊都子(ピアニスト、歌手、作曲家)

◆講演会「ハンセン病患者と文学者はいかにハンセン病問題と関わったのか」

2023年2月25日(土) 14:00～15:30

講師：西村峰龍(静岡文化芸術大学非常勤講師)

◆講演会「千年先まで言葉を届けるために」

2023年3月12日(日) 14:00～15:00

講師：姜信子(作家)



◆講演会「戦後ハンセン病文学を読みなおす」

2023年3月18日(土) 14:00～15:30

講師：荒川洋治(現代詩作家)

◆朗読会「詩集『いのちの芽』を読み継ぐ」

2023年4月1日(土) 14:00～15:00

朗読：小泉今日子(歌手、俳優)

※以上、すべて会場は当館映像ホール(定員70名)。

◆ギャラリートーク「企画展「ハンセン病文学の新生面『いのちの芽』の詩人たち」をめぐる」

オンライン 2023年3月3日(金)

19:00～20:30 事前申し込み制(定員100名)。

対面 2023年2月17日(金)、3月25日(土)、4月

29日(土、祝)、5月3日(水、祝)、5月7日(日)

すべて14:00～14:30 事前申し込み不要。

担当学芸員が、展示室から解説します。オンラインと対面でそれぞれ実施します。

(木村哲也)

『はじめてのみなさんへ』が一段と使いやすくなりました



受付で配布している『はじめてのみなさんへ』がリニューアルされました。常設展示の各コーナーの内容をわかりやすく紹介した、B5タテ判・目次含め26ページの小冊子です。

もともとこれは、常設展示室1（歴史展示）の内容を平易な言葉で記述して総ルビを付したもので、ピックアップ形式の小学生向け解説シートとしてご利用いただいていた。これが中学生以上の皆さまにも好評だったので、2020年にタイトルを「はじめてのみなさんへ」に変更しました。さらにコロナ禍以降、オンラインプログラムなどをご利用の方にも常設展示の全体像を伝えられるよう、展示室2「療養所」と展示室3「生き抜いた証」各コーナーの解説を追加し、今ではこれらをまとめた冊子の状態をご利用いただくケースがほとんどになっています。

これに合わせ、今回はある程度の分量でも読みやすいフォントに変え、見開きで読み進めるのにふさわしいレイアウトにしました。またノンブル（ページ番号）や小見出し、画像などを加え、表紙も一新しています。

小学生からおとなまで、ハンセン病問題にこれからふれてみようという方に、特にお勧めです。団体での来館や出張講座などの事前学習用資料としてもご利用いただけます。その場合は送付いたしますので、ご希望の際はお申し付け下さい。なお、冊子形式ではありませんが英訳版もご用意しています。こちらもぜひご利用ください。

(西浦直子)

「ハンセン病と人権」セミナーを開催

2023年1月29日（日）13時30分から15時40分までの予定で、「ハンセン病と人権」セミナーを開催します。例年、教員の皆さまを主な対象として実施しているセミナーになります。

今年度は、ハンセン病病歴者を家族にもちハンセン病家族訴訟の原告に名を連ねた3名の方（原告番号21番、169番、188番）と、それらの方々との交流を通してハンセン病問題の学習に取り組んでいる武蔵高等学校（私立）2年生8名とのトークセッション「ハンセン病家族と出会い、交流する学習」を実施します。トークセッションのコーディネーターとして、ハンセン病病歴者ご家族を招いて交流授業を实践された相川翼^{あいかわつばさ}氏（武蔵高等学校中学校ほか社会科講師）にご登壇いただきます。トークセッションに先立ち、啓発用ビデオ「知っていますか？ハンセン病問題」の上映も行います。

今回のセミナーは、会場参加とオンライン参加（ZOOMウェビナー）の二通りの参加方法をご用意しました。会場参加の申込は12月22日（木）で締め切りましたが、オンライン参加の申込期間は1月7日（土）から22日（日）までとなっております（定員400名、先着順）。申込方法の詳細は下記のページにてご確認ください。

本セミナーでは、ハンセン病病歴者ご家族のプライバシー保護のため、会場参加、オンライン参加とも画像撮影（スクリーンショットを含む）、録画、録音は固くお断り申し上げます。また、YouTubeでのアーカイブ公開もございません。新型コロナウイルス感染症の感染状況によりましては、会場参加を中止する場合がございます。その場合は、ホームページ等でお知らせいたします。

(大高俊一郎)

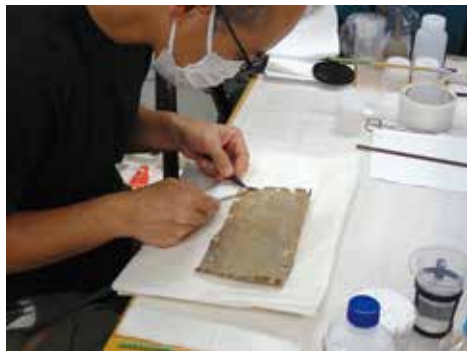
【ご案内、申込ページURL、QRコード】

<https://www.nhdm.jp/events/list/4877/>



資料の修復

展示資料の修復を実施しました



鮫の皮の修復作業

当館では、ハンセン病問題を考える上で重要な資料を収集・保存し、それらを来館者のみなさまにご覧いただくために一部を展示しています。展示資料は、日本のハンセン病政策に関するものから、ハンセン病療養所において治療のために使われていたもの、患者さんの生活道具にいたるまで多岐にわたります。

これらの資料を劣化やカビ、害虫などから守るため、資料のある展示室や収蔵庫では温湿度や文化財害虫の被害を防ぐ対策を行っています。しかし、展示室は収蔵庫と比べて来館者のみなさまに快適に展示をご覧いただけるように配慮しており、年間を通して一定の保存環境を保つことは難しいです。そのため、当館では、毎日開館前と閉館後に展示室内の点検を実施し、資料の変化を観察しています。

今年度は、点検の際に資料の異変に気がついたスタッフの報告を受けて、資料の修復を実施しました。対象資料は、ハンセン病の化学療法がなかった時代に、民間療法として水牛の角を削った粉末をハンセン病の治療薬として提供していた寺社においてこの水牛の角を削るために使われていた鮫の皮や、青森県にある国立ハンセン病療養所・松丘保養園で使われていた薬品棚などです。これらは経年劣化により一部が乾燥して変形したり、塗装の膜が剥落したりしていました。

修復には外部より修復専門の技師の方に来ていただき、館内で数日かけて文化財に害の少ない樹脂を塗布するなどの作業を実施しました。

このように収蔵資料は多くの人の目と手で守られ、後世に残されていきます。
(橋本彩香)

研究から

企画展における広報の分析

当館の企画展「生活のデザイン ハンセン病療養所における自助具、義肢、補装具とその使い手たち」(会期：2022年3月12日ー8月31日)における広報の工夫と成果について報告します。

まず、フライヤーとポスターは、障害を補う道具を一堂に集め、新たな光を当てるといふ本展の趣旨をデザインに落とし込みました。また、従来の送付先に加え、本展のテーマに関心があると思われる層への周知として、各区・市のリハビリテーション・義肢装具士に関連する施設及び、デザインや美術系の大学などにフライヤーとポスターを送付しました。

一方、会期中に実施した報道関係者向けの説明会を機に、新聞・ラジオでの紹介が始まり、他の媒体がこれに続きました。結果として、新聞、ラジオ、雑誌、テレビ及び、ネット記事における本展の紹介は共同通信社の配信によるものを合わせると50近い媒体となりました。

SNSに関しては、当館のtwitter及び、Facebookアカウントなどで来場者の感想やコメントをリツイートし、合わせて、関連するミュージアムトークや講演会などは当館のYouTubeチャンネルにて公開し、会期中の話題を絶やさないように心掛けました。

最終的に、会期中の総来館者数は、4819名を記録し、アンケートでは来館が「はじめて」と答えた方が回答の81%、そのなかでも特に、関東近県からの30代以下の方への口コミにおける広報の成果が判りました。

一方で散見された課題に関しては、それに合わせた工夫を検討し、本年2月に始まる企画展「ハンセン病文学の新生面 『いのちの芽』の詩人たち」に繋がりたいと思います。

(吉國元)



SNSで写真を投稿できるように館内で撮影可能なスポットを設けた。

当館リーフレット リニューアルのお知らせ

この度お客様に配布している当館紹介リーフレットのデザインを全面リニューアルいたしました。

リニューアルのポイントは、視覚障害のある方にも読んでいただけるよう、新たに点字を加えました。さらに音声による読み上げ機能である音声コード Uni-Voice (ユニボイス) にも対応いたしました。Uni-Voiceはスマートフォンや専用読み取り装置でリーフレットに書かれている情報を音声にすることができる機能です。

また、当館ホームページは日本語以外にも、国連6言語である英語・中国語・スペイン語・ロシア語・フランス語・アラビア語への自動翻訳機能を備えているため、新しいリーフレットから、それぞれの言語の当館ホームページへ簡単にアクセスいただけるよう、6言語のQRコードを掲載いたしました。

記載内容も全面的に見直し、「このリーフレットを見れば、当館のことがわかる」をテーマに、団体見学の紹介や学芸員による外部講演活動などを新たに記載いたしました。

今回のリニューアルを通し、より多くの方に情報が伝わるよう、当館を初めて訪れる方、そしてリピーターの方にとっても、ハンセン病問題を正しく知っていただく入口になればと願っています。

(千代倉裕子)



リニューアルしたパンフレット

お知らせ

■～職員紹介～

2022年10月より、職員が2名増えました！！

管理部管理課：課長 ^{すがわら ひろえ}菅原 広恵
「資料館運営を支える管理部門の裏方として努めさせていただきます。どうぞよろしくお願いたします。」



社会啓発課 図書室：司書 ^{はせがわ あきな}長谷川 秋菜
「ハンセン病問題についての資料を守り、伝えていく仕事に携われることを誇りに思います。是非とも図書室をたくさんご利用ください。」



利用案内

■開館時間 9：30～16：30

■団体に学習する (10名様～70名様)

10名様以上でご来館の団体向けに、映像視聴、見学前ガイダンス、展示自由見学などを組み合わせた団体向けプログラムをご用意しております。お申込みは当館HPよりお願いします。

■オンライン団体見学プログラム (10名様以上)

通信アプリ【Zoomミーティング/Google Meet】などを使用した、オンラインのプログラムをご用意しております。

映像視聴、展示室からのライブ解説と質疑応答などを組み合わせてご利用いただけます。

オンラインプログラムお問合せ：group@nhdm.jp

■休館日 毎週月曜日 (祝日の場合は開館)
年末年始、国民の祝日の翌日、館内整理日

■入館 無料

■交通

- ・西武池袋線 清瀬駅南口より
西武バス「久米川駅北口」行バスで約10分
 (「ハンセン病資料館」下車)
- ・西武新宿線 久米川駅北口より
西武バス「清瀬駅南口」行バスで約20分
 (「ハンセン病資料館」下車)
- ・JR武蔵野線 新秋津駅より
徒歩約20分

〒189-0002 東京都東村山市青葉町4-1-13
TEL 042-396-2909 FAX 042-396-2981
URL <https://www.nhdm.jp/>